

災害

富山県沿岸部を高波が襲う



入善町 提供



入善町 提供



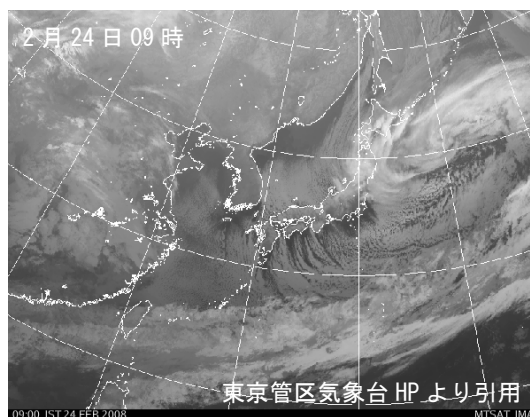
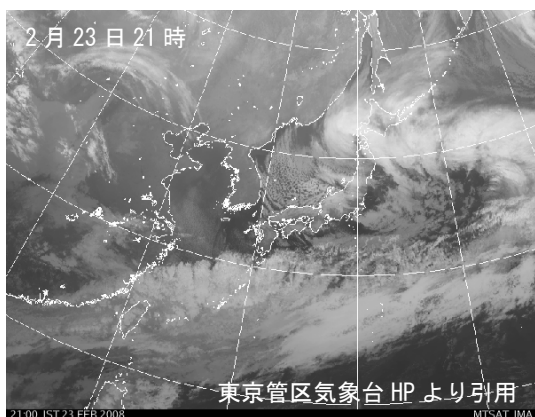
入善町 提供

2月24日、富山県沿岸部（黒部市・入善町）を高波が襲った。死者2名、重軽傷者16名、全壊住家3棟、半壊住家7棟、一部損壊住家14棟、床上浸水43戸、床下浸水112戸の被害をもたらした。（2月26日8時現在。富山県消防・危機管理課）

平成20年2月23日、低気圧が日本海中部を発達しながら東北東に進み、24日に三陸沖に抜け、日本付近では冬型の気圧配置が強まった。この発達した低気圧の影響で、23日から24日にかけて風が強く、富山県の沿岸では24日の明け方から波が高くなった。（資料2より）

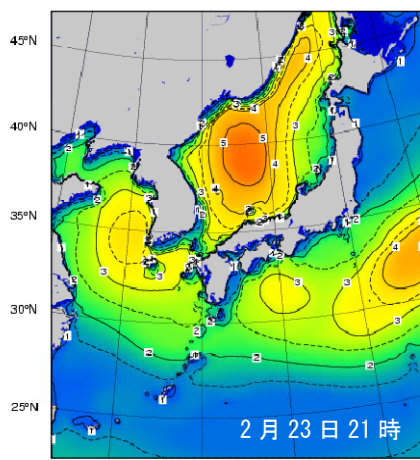
気象衛星「ひまわり6号」の赤外画像

22日21時頃、日本海で発生した低気圧が24日にかけて急速に発達しながら北日本を通過した。低気圧は22日21時から翌23日21時までの24時間で28hpの気圧が急低下し、発達していった。(資料1より)

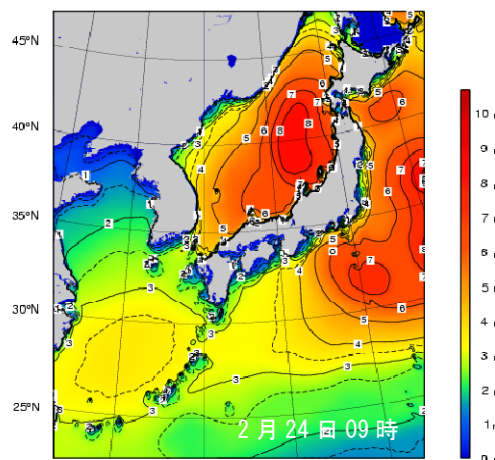


沿岸波浪図

23日から25日にかけて西日本の日本海側と、北日本と東日本の海上では6mを超える大しけとなった。(資料1より)



東京管区気象台 HP より引用



東京管区気象台 HP より引用

【利用上の注意】

波の高さを等波高線で示しています。等波高線は、1メートルごとの実線と0.5メートルごとの破線(4メートル未満の領域のみ)を表示しています。波の高さは「有義波高」で示しています。「実際の波には、有義波よりも高い波が含まれているので注意が必要です。

【有義波高について】

実際の海面には高い波も低い波も含まれており、このような状態をよりよく代表するために、目視での観測に近いとされる「有義波高」が用いられています。波高(波の高さ)と言った場合は、一般に有義波高を指します。ただしその利用に当たっては、有義波高よりも高い波を含み得ることに注意が必要です。例えば、100個の波を観測した中には有義波高の約1.6倍の最大波が、同じく1000個の波の中には約2倍の高さの最大波が含まれるといわれています。

詳しいことは、気象庁ホームページ中の次のページをご覧ください。

<http://www.data.kishou.go.jp/marine/wave/comment/term/yuugi.html>

資料1より引用

被災後の入善港と入善町芦崎の様子 (写真撮影：富山地方気象台)



富山地方気象台 提供

入善港内 転覆した船舶



富山地方気象台 提供

入善港東防波堤 護岸施設の損傷および電線に引っかった木の枝



富山地方気象台 提供

入善町芦崎 全壊した家屋 (非住家)



富山地方気象台 提供

入善町芦崎 押し流された防潮扉

富山地方気象台の現地聞き取り調査によると、「夜間のうねりの音で眠れなかった（入善町芦崎）」、「海面全体が高くなり、海の中に山があるようだった（黒部市生地芦崎）」など、住民の方の恐怖が伝わる。（資料2より抜粋）

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、お怪我をされた方々のご回復と被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

写真提供：入善町、富山地方気象台

資料引用：東京管区気象台HP「平成20年2月23日から24日にかけて急速に発達した低気圧に伴って発生した強風に関する気象速報」
平成20年2月25日 http://www.tokyo-jma.go.jp/sub_index/bosai/disaster/20080223/20080223_kanku.pdf

参考資料：資料1東京管区気象台「平成20年2月23日から24日にかけて急速に発達した低気圧に伴って発生した強風に関する気象速報」
平成20年2月25日

資料2富山地方気象台「平成20年2月24日の富山県内の高波について」平成20年2月27日

資料3北陸地方整備局「下新川海岸（富山県）における冬期風浪災害について直轄河川等災害復旧事業（緊急災）により応急復旧着手へ」平成20年2月27日

入善町HP <http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>

謝辞：上記の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

当会、発行物における文章・画像の著作権は当会及び個人、又は第三者に属しており、無断での複製・転用を固くお断りいたします。

平成20年2月28日現在。今後、更新される可能性があります。